

# 保育北九州

令和7年1月1日  
 発行 (一社)北九州市保育所連盟  
 〒805-0019  
 北九州市八幡東区中央2丁目1-1  
 (レインボープラザ5F)  
 電話(093)661-2153番  
 発行人 山本文雄  
 編集人 西敏昭

2025 **217**

## 「たからぶね」

(5歳児の作品)



〈提供 八幡西支部〉

## 「おしょうがつ」

(5歳児の作品)

表紙 ..... 1  
 新年挨拶 ..... 2～3  
 北九州市保育研修大会 ..... 4～5  
 研修・一期一会 ..... 6  
 支部近況 ..... 7  
 雑感・編集後記 ..... 8

### 雑感 私の轍

雑感のお話をいただいていたから、二十四年ほど前に保育ゼミナール研修のレポートで書いた「私の保育史」を思い出していました。当時、入職十五年目の私は、勧められるまま受講したのですが、毎回レポートを提出し当日指名されて発表するという研修内容を知り、どこからともなく汗が出たことを覚えていました。

「私の保育史」はそのテーマの一つでした。それまで勤務した三つの保育所でのことを思い出し、「初めての保育所は保母が六人で毎日無我夢中だったな」「二カ所目は公開保育があったり、研究研修会で発表したりと緊張することが多かったな」「今は関係機関との会議に出席させてもらって初めて知ることが多いな」など、保育士の自分を何度も振り返り、未熟な文章力を駆使して、ワープロでレポート作成したことを覚えていきます。振り返りながら、指導していただいた先輩方の言葉や行動が思い出され、多くのことを教えていただいたことに気づかされました。7つの職場で様々な立場を経験させていただきましたが、それぞれの職場で先輩方から学んだことが自分の成長と一緒にあり、感謝でいっぱいになりました。

話は変わりますが、先日見ていたドラマの中でNASAの火星探査車オポチュニティが来た道を振り返って撮った轍の写真がありました。火星での運用期間は三月月の予定でしたが通信が途絶えたのは十五年目。車輪を失った

り砂だまりにはまったりしながらもそのたびに問題を克服し、想定外の六十倍稼働したことを知ると、その轍の写真が尊いものに思えました。思えば、私も実習生のころ「この仕事向かないかも」と言われたのですが、北九州で保育所に勤める機会をいただき「やれるとこまでやってみよう」と、気づけば三十九年目。オポチュニティにちよつとした親近感があるのかもしれないね。ちょうど保育ゼミナール研修のレポートを書いていた頃、五十九歳だった父が他界し、自分が父の歳になった二カ月後に母が亡くなり、そしてこの「雑感」の依頼をいただきました。保育士としての三十九年を振り返る機会と、母の遺品整理をしながら生まれてからの五十九年を振り返る機会が同時に訪れ、この三カ月慌ただしい中でも立ち止まる時間を持つことが出来ました。これまでの私の轍が見えたかどうかはわかりませんが、また前を向いてもう少しだけ新しい轍をつくって進みたいと思います。

ちなみに保育ゼミナール研修で私が発表にあたったのは、題名ははっきりと覚えていませんが、テーマは「地域や関係機関との連携について」でした。発表後、講師をされていた藤岡佐規子先生に「公立の先生方も頑張っているじゃないですか」と言っていたこと、今でも心に残っています。

蜷田保育所 所長 上原篤子

## 編集後記 — 思いを受け継ぐ —

ノルウェーのノーベル平和賞の選考委員会は、10月11日に2024年(令和6年)のノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会に授与すると発表したことは皆さんも新聞、テレビ等の報道でご存じの方も多いと思います。

戦後79年、国内では広島・長崎と原子爆弾が投下され20数万人の生命を奪うとともに、多くの人々を不幸にしました。今も原爆の後遺症で苦しんでいる方や亡くなって逝く方々の声を日本被団協は被爆者の立場から核兵器廃絶を世界に訴えてきました。ノーベル平和賞の受賞の意義をあらためて考える平和の大切さを感じる受賞となりました。すべての被爆者の皆様も心に敬意と祝福を送りたいと思います。「あの日のオルガン疎開保育園物語」は実話に基づき6年前に映画化され、多くの保育関係者の皆様も映画館に足を運び鑑賞されたと思います。まさに戦時中、戦火を逃れる為に園児と共に疎開をしなければならぬ状況に追い込まれ、受け入れ先で疎開をはじめたものの食料不足の為、子どもたちは栄養失調

状態の中、不規則な生活が続き体調を壊すなど、保母(保育士)として子どもたちの命を守りぬいたことが映画化されました。

保育園の始まりは諸説がありますが、明治23年に農業従事者や労働者の要望に基づき託児所が出来ていったようです。新型コロナウイルスも第5類へと移行し、保育所(園)等も以前のように諸行事等を開催し、又、楽しくおしゃべりしながら、給食を食べられる生活へと徐々に戻ってきました。保育所(園)等ではコロナ感染症が発生した時は感染リスクを避けるため、登園・降園も玄関で行いマスク着用、検温、換気、消毒、手洗いと子どもたちの為に保育士は感染症のリスクと共にマスクにフェイスシールドを着用するなどの対策を行い、感染予防に努めてきました。

未来ある子どもたちが健康、安心、安全に保育所(園)等での生活を送るために、先人である諸先輩たちが築いてきた保育の道・保育に対する思いをしっかりと受け止め、日々保育に真摯に向き合いながら保育のありかたを共に学び考えて行きたいと思えます。今年も皆様に役立つ情報を委員一同、誌面・WEBで発信してまいりますので「保育北九州」をよろしく願います。

【保育北九州】編集委員長 西敏昭

# 新年のご挨拶

一般社団法人北九州市保育所連盟

会長 山本文雄



あけましておめでとうございませう。会員の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、連盟における様々な事業におきまして、皆様方の多大なお力添えをいただきましたこと心よりお礼申し上げます。本年も変わらぬご協力のほどお願いいたします。

はじめに、昨年元日の能登半島地震、その災害復興のさなか、九月には能登半島を含む全国各地で発生した豪雨災害等により多くの方が被災されました。被災されました皆様に対し心よりお見舞い申し上げますとともに「日も早い復興をお祈り申し上げます。自然は地球上のすべてのものを優しく包んでくれま

すが、時に大きな試練ももたらします。その厳しさを受け入れながら私たちは智慧を出し合い、助け合って生活しなければならぬことをあらためて考えさせられます。

話は変わって、会員の皆様方はすでにご存じのように、昨年11月29日に閣議決定した今年度の補正予算案で、こども家庭庁は4,335億円を追加で計上しました。前年度の補正予算と比較しておよそ2.4倍です。私たち保育所(園)等に勤める福祉職員としては、これからますます社会に求められ、期待される立場となるでしょう。社会がどのように変化しようとも、子どもたちのしあわせを守り、「こどもまんなか社会」を実現するため、家庭、地域、社会で互いに努力し

ていきたいと思います。

私たちの北九州市では、「北九州市こどもまんなかスイッチ！」を合言葉に、5つのアクションを定められました。

## 【アクション1】

こどもがいたら、みんなで「ここにスイッチ」オン！

## 【アクション2】

こどもとは、ひざをかがめて「同じ目線」で

## 【アクション3】

こどもに教え諭すときには「愛情いちばん」

## 【アクション4】

子育ては時に大変なことも。やさしく伝える「大丈夫」

## 【アクション5】

こどもの周りには、いつもたくさんの「ありがとう」を

子育てしやすい地域を目指す合言葉です。常日頃から、子どもと関わる私たちには馴染みやすいことです。一般の方々に先駆けてアクションをおこし、「こどもまんなかcity」を実現したいですね。さて、今年「巳年」です。干

支のはじまりの「子年」が植物の発芽の年となり、月日を経て生長し、「巳年」に、その植物に種子が動き始め、次の生命が誕生し、新しいことが始まる年になるといわれています。

また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ年」ともいわれています。

昔から、とかく蛇は忌み嫌われやすいですが、日本神話や民話では、智慧・財産や弁天様のお使いと例えられました。また、脱皮を繰り返すことが再生や蘇生の象徴とされ、WHO(世界保健機関)では杖に巻き付いた蛇がシンボルとされています。身近なところでは、日本を含め世界中の救急車にも描かれています。「巳年」は困難を乗り越えて前進する年です。

「巳」と「己」はよく似た漢字です。「今のままでいいの?」と、どんな時も己を振り返り、どうしたらよい方向にもつていけるか、みんなが笑顔で幸せになれるか、自分の内面の脱皮をめざしていきましょう。本年もどうぞよろしく願っています。

## 本年も宜しく お願いいたします



### 門司支部

支部長 西 敏昭

保育士会長 日笠 智子

### 小倉北支部

支部長 鷹取 和教

保育士会長 室田 尚子

### 小倉南支部

支部長 伊賀良 昌宏

保育士会長 宇津 郁子

### 会長

山本 文雄

### 顧問

西村 賢了

酒井 光義

岡村 信久

### 副会長

北野 久美

林田 猛利

伊賀良 昌宏

### 保育士会副会長

黒田 玲子

重國 香

新山 リ工

### 若松支部

支部長 橘原 義晃

保育士会長 有田 美加

### 八幡東支部

支部長 岡本エミ子

保育士会長 重國 香

### 八幡西支部

支部長 坂井 浩司

保育士会長 柏木 幸子

### 戸畑支部

支部長 平田 敬子

保育士会長 堀 千鶴代

# 第62回 北九州市保育研修大会

去る、11月2日にTKP小倉シティセンターで予定されていました施設長特別研修会は、大雨警報が発令された為、中止となりました。翌3日は、晴天に恵まれ北九州ソレイユホールで約1,600名の会員が参加して開催されました。以下、その概要をお知らせいたします

## 基調報告、活動報告

(二社)北九州市保育所連盟  
会長 **山本文雄**

山本文雄会長から今年度も多くの職員が参加する研修大会ができたことが大変喜ばしいと笑顔で挨拶がありました。



次に、こども家庭庁が調査した令和4年度の児童虐待による死亡事例について話がありました。死亡事例は全国で72人、そのうち0歳児が半数を占めているとのこと。北九州市も子どもを虐待から守るための条例が施行されています。私たちは日々、子どもも大人も自分らしさが発揮できるように姿勢を正して保育に向かわなくてはと、身が引き締まる思いがしました。

(公社)北九州市私立保育連盟  
会長 **山本博文氏**

山本博文会長からは市内や福岡市のこども誰でも通園の現状をはじめ、主任保育士専任加算、処遇改善等加算など「こども家庭

庁」の予算について様々な情報をいただきました。また、令和8年5月には第68回全国私立保育研究大会北九州大会が開催されます。テーマは「Restartほいくで未来はかわるっちゃ!」きつと見つける 私たちにできること」Kitakyushu Action!」です。各地から多くの方々を温かく迎えるために一人一人ができることを確実に進めなくてはと認識が深まりました。

北九州市保育士会  
会長 **北野久美氏**

北野会長からは全国保育士会の成り立ちや主な取り組みなどお聞きしました。

1956年の立ち上げから68年を経過。その間、法制度の改革や専門職として子どもたちの最善の利益を保障するため、また保護者の子育てを支えるため状況や課題を確認しながら組織が一丸となって邁進してきた歴史を目の当たりにしました。「こども未来戦略」の具体化に向けた今後の動向に注視し、真のこどもまんなか社会の実現

に向けて前進しなくては、とあらためて感じた報告でした。

## 実践発表

三萩野保育園  
**萩山小夜子氏**

風通しの良い職場づくりやブラザーシスター制を取り入れ、職員の育成を行っています。離職率が高まっています。

離職率を分析することで、人間関係の問題が課題であることが分かり、園内研修や育成指導の取り組みを検討しながら研究を進めていきました。忌憚のない対話により、職員同士が支え合い、高め合う共同的な関係を構築することが、風通しの良い職場環境につながると考えます。今後も課題解決のため、検討を行いながら取り組みを継続していきたいと思えます。

小倉北ふれあい保育所(夜間部)  
**酒井初恵氏**

保育の質向上への取り組みとし

て、根拠に基づく保育実践実現のために研修システムの構築を目指しました。

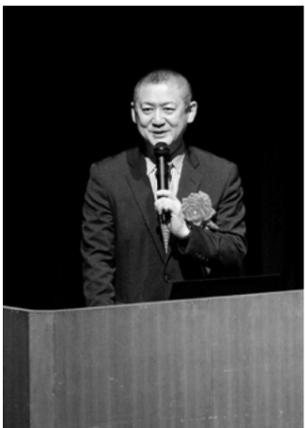
すべての職員を対象に具体的な4つの目的を念頭におき、研修や保育所運営を行っています。所内研修のためのビデオ分析シート、ビデオを用いた保育研修の手引き、独自に開発した自己評価シートを活用して保育を客観的に分析し、より良い保育実践を目指して取り組み、保護者に保育の情報を様々な方法で発信し、パートナーシップを育んでいます。

## 記念講演

「昨今の保育動向を踏まえた、今後の(園)の在り方について」  
講師

こども家庭庁 成育局 成育基盤企画課  
教育・保育専門官  
**馬場耕一郎氏**

はじめに、社会に直結する大きな問題である少子化の現状や、子どもを生み育てやすい環境を作る為に「こどもまんなか」をスローガンとしたこども家庭庁の設置経緯・組織



体制などについて詳しく説明がありました。保育士は、こども基本法の基本理念である人権の保障・無償の愛・意見の尊重・最善の利益を、日々の教育・保育の中で実践していることに胸を張って自慢して欲しいと労いのお言葉を頂きました。また、社会全体で子どもの育ちを支えていきましょう」というねらいがあり、こども基本法の理念を世の中に浸透させるものが「こども大綱」であるため、保育士にとって当たり前と思っているその理念を世間に伝えてほしいとも語られていました。「こども誰でも通園制度」については報道などにより誤解があり、これは本格施行されたものではなく、保育士と一緒に問題点を炙り出して、より良い制度に仕上げていく段階であることや、義務ではなく選択権があるものだと説明されました。また、こ

ども家庭庁の最重要課題として保育士不足を解決することを挙げられ、保育人材の確保に向けた総合的な対策や保育士の負担軽減についての取り組み、保育士等の処遇改善について等、最後に希望の持てるお話がありました。最後に、こども家庭庁は「保育士の味方です」「保育士を支えます」「真の意味でのこどもまんなか社会の実現に向けて、子どもたちのために今まで以上の笑顔を注いでほしい」という言葉で締めくくられました。



## \* およろこび \*

- 瑞宝双光章(令和6年春)  
認定こども園中央しおり保育園  
園長 岡本エミ子
- 瑞宝単光章(令和6年秋)  
れんげ心の花保育園  
園長 黒田 玲子
- 厚生労働大臣表彰(社会福祉功労者)  
金田保育園  
主任保育士 太田千枝子
- 全国私立保育連盟 保育功労賞  
認定こども園あけぼの愛育保育園  
園長 北野久美
- れんげ心の花保育園  
園長 黒田 玲子
- 全国保育協議会 会長表彰  
認定こども園リアンはおお保育園  
園長 河津洋美
- 古城保育園  
園長 岡崎和江
- 白鳩保育園  
園長 宇津郁子
- 西村法昭顕彰会表彰  
認定こども園長浜保育園  
教頭 岡村うめ子
- 認定こども園中央しおり保育園  
園長 岡本エミ子
- 認定こども園あけぼの愛育保育園  
園長 北野久美
- 認定こども園本城西保育園  
園長 橘原智司
- 認定こども園本城西保育園  
調理員 橘原和恵

# 研修・一期一会

## 第8回九州保育三団体研究大会 (熊本大会)

令和6年7月11日(木)・12日(金)熊本市で、「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現をめざして」を大会主題として、第8回九州保育三団体研究大会に九州各県から1,200名を超える保育関係者が集まり、熊本城ホールで式典及び基調講演が行われました。「こども政策の最新動向について」と題して、こども家庭庁成育局馬場耕一郎氏による少子化の現状やこども基本法・ビジョンについてなどの行政説明及び資料を基に報告がありました。子ども・子育ての取り組みが重要視されている中、最前線を担う私たち保育現場の責任の重大さを改めて感じました。すべての子どもの最善の利益を



か、保育の役割はさらに大きく」をテーマに、保育を考える親の会代表顧問 普光院亜紀氏による講演がありました。質の高い保育へのますますの期待と、社会のニーズを受け止めつつ、子どもの育ちに寄り添い、子どもの代弁者としての役割、専門性を発揮した時

保育の根幹として、子どもたちの笑顔と幸せを守り続けられるよう、「子どもの今を大切に」保育し、支援し続けることを皆で確認しました。

2日目、私は、「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」というテーマの第二分科会に参加しました。3つの実践発表と九州ルーテル学院大学 永野典詞教授からの助言があり、短い時間でしたが、グループ討議で意見交換もできました。保育者としていかに子どもや保護者に寄り添い、支援ができるかなど、保育のヒントを学ぶことができました。最後に、記念講演「少子時代にどう子どもを育むの

## 第67回全国保育研究大会 (奈良大会)

代に見合った支援の在り方などを考え、学ぶ機会となりました。  
白野江保育園 富永久美

第67回全国保育研究大会が令和6年10月17日(木)・18日(金)に奈良市の「なら100年会館」で、「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現をめざして」というテーマで開催されました。初日には、こども家庭庁から「保育行政の動向と課題について」の説明があり、こどももんなか社会の実現に向けた保育所の役割が議論されました。こども大綱や「はじめの100カ月の育ちビジョン」の周知、こども誰でも通園制度の導入など地域における保育所の在り方として検討していく必要性を強く感じました。

基調講演では、全国保育協議会会長の奥村尚三氏が、職員配置や人材確保の改善について述べられ、保育士の仕事の魅力を広める取り組みが求められるとの事でした。  
2日目には、「新たな時代の保育実



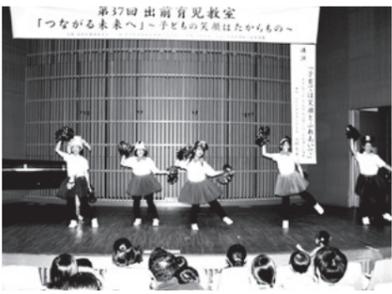
践」をテーマにした分科会に参加し、育児担当制や異年齢保育の事例が紹介されました。グループワークではPDCAサイクルや職員間のチームワークの重要性、子どもの主体性を育む工夫が共有されました。神戸大学大学院教授 北野幸子氏は「変わる、変わらない、変わろうへ」と、柔軟に変革を進めることの大切さを語られ、保育の質向上とともに、保育士の専門性を社会に発信していく意義を強調されました。今後も「こどももんなか社会」を目指し、一人一人の子どもを尊重する保育を心掛けながら、「答えはひとつではない」と話された北野氏の言葉を心に留め、常に模索しながら保育の充実を図っていききたいと思います。  
吉野保育所 宮口 亜紀美

## 支部近況 戸畑支部篇

### 出前育児教室

令和6年9月7日(土) ウェルとばたで、「つながらる未来へ」子ども笑顔はたからもの〜をテーマに第37回出前育児教室・戸畑区保育まつりが開催されました。

始めに北九州市保育士会の北野久美会長による『子育ては笑顔とふれあい』と題した講演が行われ、保護者の方々は、子育ての気付きを得ている様子で肯きながら話を聞いていました。  
その後保育士によるワクワクいっ



ぱいのステージが繰り広げられ、同時に多目的ホールでは、遊びのコーナーやフォトスポット、きのこの収穫体験などが催されました。参加した皆さんは、親子のふれあいや盛り沢山の遊びを楽しみ、どちらの会場も、親子の笑顔があふれていました。終了後、「ありがとう」「またくるね」とスタンプに手を振る子どもたち。アンケートには「子どもの喜ぶ顔を沢山見ることができて幸せでした」とありました。これからも、子どもたちの健やかな成長と子育て支援に努めていきたいと思えます。

### 園の紹介

#### ◎さかい川保育園

西中原保育園として昭和29年に開園されました。その後、現在地にさかい川保育園として新築移転し17年が経ちました。運営母体である社会福祉法人北九州市戸畑民生事業協会は『まごころと安心をお届けいたします』をスローガンに掲げ、地域に根差し親しまれています。周りは住宅街ですが、園庭のプランターで育てている野菜や花に集まる

虫を図鑑で調べ、自然に触れる機会を大切にしています。また、地域の方々とも交流を持ち、コンポストを利用して給食で出た野菜の皮を使つての堆肥作りを教えて頂いたり、公園の花壇に花を植えたり活動も一緒に行っています。



さかい川保育園 園舎

#### ◎沢見あやめのもり保育所

九州工業大学に隣接し地域には夜宮公園もあり、四季を感じることが出来る自然豊かな保育所です。自然の中で感性を育み、一人一人の個性を尊重しながら自分で考え行動しようとする力を養い、主体性を持ってたくましく生きていく力を育てています。  
園内には、「トトロの森」と称した小さな森があり、どんぐりやまつぼっくりを拾ったり、ツリーハウスの展望台に登ったりターザンロープ



沢見あやめのもり保育所 園舎

につかまって遊んだりしています。自分たちで栽培した夏野菜を収穫し調理してもらって食べたり、トウモロコシや玉ねぎの皮むき、梅干し作りなどをしたり、楽しみながら食育も行っています。

### 寄付

(一社) 北九州市保育所連盟  
(公社) 北九州市私立保育連盟  
北九州市保育士会

へご寄付  
ゆたか保育園 園長 河野智子様より保育事業発展のためご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。